

# 能-BOXゼミナール2023 今をつらぬく古典の光



①

9月 9日(土) 14:00~15:30  
『世阿弥や、その時代の人々 ~室町のエンターテインメント』

お話

山中 透晶

- 能楽師シテ方観世流
- 重要無形文化財(能楽総合)指定保持者

一般社団法人日本能楽会、公益財団法人能楽協会会員。  
仙台市在住。二歳で初舞台を踏む。梅若桜雪 並びに 父山中雷三に師事。2014年重要無形文化財保持者に認定される。仙台を拠点に全国で活躍中。能の公演以外にも、誰にでもわかりやすく能を紹介するイベントを数多く開催。能-BOXでは2012年から毎年夏に「こどものための能講座」を実施。「身近に」「わかりやすく」「楽しく」をモットーとし、様々な切り口から能の魅力を紹介している。

②

9月16日(土) 14:00~15:30  
『和楽器店が見る未来 ~伝統は進化の積み重ね』

お話

梅原 久史

- 有限会社梅屋代表取締役
- 一般社団法人邦楽器組合連合会理事

仙台市「梅屋楽器店」二代目の次男として生まれる。高校卒業後、広島県福山市の和楽器メーカー「株式会社小川楽器製造」入社。その後秋田市に「有限会社梅屋楽器店」を設立する。販売店の勉強のため東京都「おこの店 矢野」に弟子入り、メンテナンスと舞台業務を学ぶ。当時東京芸大の教授小島直文氏の声掛けで「邦楽器音響研究会」メンバーに入り、三味線カンガルー皮・人工皮革等の開発に参加する。現在、秋田県音楽教育研究会・秋田市中央高齢者大学講師などをしてしながら楽器店目線の講演をして愛好者の拡大に努める。また隔年でヨーロッパ・ドイツでの和楽器メンテナンスを実施。2017ウッドデザイン賞を3社共同製作「つききこぼこ」で受賞。

③

9月30日(土) 14:00~15:30  
『能と謡と近世芸能 ~近松の浄瑠璃・歌舞伎作品を中心に』

お話

深澤 昌夫

- 宮城学院女子大学教授(学芸学部日本文学科)

盛岡市出身。東北大学大学院修了。専門分野は中・近世の文学と芸能。近松の研究で平成10年度歌舞伎学会奨励賞受賞。主な著作として、戦後の演劇・映画・音楽・舞踊等、芸術諸ジャンルにおける近松受容の実態を明らかにした『現代に生きる近松-戦後60年の軌跡-』(雄山閣)、「近松の『闇』」(『江戸文学』30、ベリかん社)、「近松-語りどドラマと虚実のあいだ-」(『國文學』47-6、學燈社)、「観客動向に見る文楽の過去・現在・未来」(歌舞伎学会『歌舞伎 研究と批評』45~48)などがある。目下、文学と芸能の両面から「日本人の心」「日本の精神文化」について探究中。現在、宮城学院女子大学副学長。

④

10月28日(土) 14:00~15:30  
『昔の尺八 ~古楽器や先人達が伝える多彩な世界』

お話

國見 昌史

- 尺八家

三世川瀬順輔、庸輔両師に地歌・箏曲などの三曲尺八、琴古流本曲及び根笹流錦風流伝本曲を学ぶ。尺八古典本曲は野田静華師に奥州流鶴之巢籠、前川耕月師に岡本竹外伝本曲を、神田可遊師に各派本曲、海童道曲を教わり宮川如山・高橋空山伝曲皆伝を受ける。虚無僧音曲のルーツを求めて各地に残る虚無僧寺跡や先人の墓所など所縁の地を訪ね、また先人遺愛の古管尺八や一節切尺八、古譜など尺八にまつわる様々な物を蒐集、道具や曲目の本質、地域性や伝承系譜などについて研究を重ねている。

⑤

11月11日(土) 14:00~15:30  
『コンテンポラリーと能 ~創作と異種交流の現場』

お話

津村 禮次郎

- 能楽師シテ方観世流
- 緑泉会会長
- 重要無形文化財(能楽総合)指定保持者

一般社団法人日本能楽会、公益財団法人能楽協会会員。二松学舎大学文学部特任教授。一橋大学社会学部講師。大学在学中に一橋観世会に所属し、津村紀三子に師事。1969年観世流師範。74年に緑泉会会長。91年重要無形文化財保持者に認定される。79年より小金井新能を企画制作。新作能、創作活動、海外公演も多く、アレッシオ・シルベストリン、森山開次などダンサーとも共作、共演している。2010年度文化庁文化交流使としてロシア、ハンガリーで指導交流を行う。著作に「能・狂言図典」「能がわかる100のキーワード」。また「舞幻(BUGEN)」を出版。その他、写真集「能」(PIE BOOKS)等に多数掲載される。15年にはドキュメンタリー映画「躍る旅人 能楽師・津村禮次郎の肖像」(三宅流制作監督)が公開された。

聞き手【①~⑤】

小塩 さとみ【宮城教育大学教授】

幼少時よりピアノを習ったり、合唱団に所属したりして音楽に親しむ。国際基督教大学に入学しサークル「長唄研究会」で三味線に出会う。その後大学院に進学、長唄の音楽構造について研究し、お茶の水女子大学大学院より博士号取得。現在は宮城教育大学で音楽学を教えている。著書に「現代日本社会における音楽」(放送大学教育振興会)、「日本の音・日本の音楽」(アリス館)など。

序説【②】

邦楽器を通してみる伝統芸能の持続可能性とは？  
すずき 佳子【エディター・キュレーター／東北福祉大学助手】

宮城教育大学大学院修士課程修了。広告会社、博物館、美術館を経て、2007年より東北福祉大学・鉄道交流ステーション学芸員として企画展(39回)およびブックレットを制作。著書「猿蓑さ参上」(香月洋一郎と共著、平凡社)。宮城県美術館現地存続運動の記録集『みんなであまった美術館』(2021)の編集チーフを務める。京都大学を拠点としたプロジェクト「新しい文化政策プロジェクト」メンバー。趣味として長唄三味線を修行中。

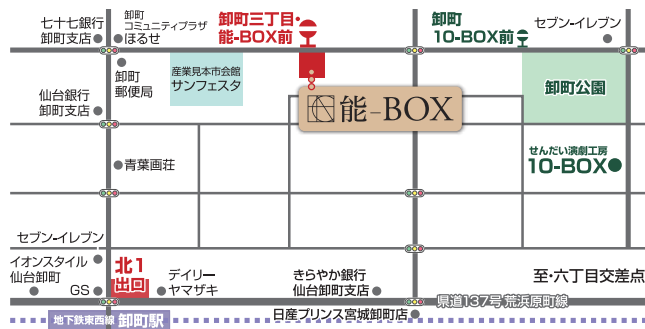
【会場】 せんだい演劇工房10-BOX別館 **能-BOX**

(仙台市若林区卸町2-15-6)

【アクセス】 ●地下鉄：仙台駅より地下鉄東西線「卸町」駅下車、  
[北1]出口より徒歩約10分。

●市営バス：仙台駅前50番バスのりばより、  
花京院・国立病院・卸町会館經由小鶴新田駅行  
「卸町三丁目・能-BOX前」下車(所要時間約25分)。  
バス停向かいの銀色の倉庫が能-BOXです。

※お車でお越しの場合は、近隣の有料駐車場をご利用ください。



【ご連絡先】 せんだい演劇工房 10-BOX 電話> 022-782-7510 [9:00~21:00] メール> contact@gekito.jp